

カハシュ都市連合

北方に点在する都市が結んだ経済・軍事両面にわたる同盟。元々 東部にあるカハシュ湖近辺にあった ア = カハシュ、ヘ = カハシュ、ウィ = カハシュの 3 都市で構成されたものだったため、カハシュの名が冠された。この 3 都市は互いに連携しあった産業を構成しており、それを磐石とするために同盟を結んで助け合う協定を結んだのが都市連合の原型である。

その後、ジヒト砂漠の全域から都市が参加したが、"カハシュ"の名前だけは残っている。最初に 3 都市が同盟したのは 408 年で、比較的新しい部類に入る国家である。現在は 8 都市が加盟している。

統治体制

各都市の自治体制は変わらず、登録されている市民数に応じた拠出金を出し合い、都市間の治安や経済体制の維持を行うという互助的な意味合いが強い。

主幹都市

市民数が最も多い都市・すなわち拠出金が最も多い都市が「主幹都市」となり、集められた拠出金の運用を任される。拠出金は災害などがあった時の援助、犯罪者などを取り締まるための傭兵雇用などに用いられる他、ある程度は自分の都市のために使用することが認められる。

監察官

それぞれの都市の法体制に干渉することはしないが、各都市間の出入りと商取引が自由に行えることが同盟の条件であるため、そうした権利が不当に制限されることが無いように監視する役割を持つ「監察官」が秘密裏に任命されて、各都市に派遣されている。監察官は必ず別の都市から派遣される。こうして互いに同盟体制を守っているかどうか監視し合う体制となっている。

なお、出入りと商取引の自由を保障するのは、同じ都市同盟に属する者に限定されており、他国・他地域から訪れる者に対するスタンスは各都市の裁量に委ねられている。

傭兵団

拠出金を使って、各都市の治安を守るために傭兵が雇われている。安定した収入にもなるため、生活のために北方に赴く戦士も多いという。犯罪者の取り締まりだけでなく、都市周辺や交易路に出現する魔物にも対応するため、腕利きの戦士は厚遇される。

また都市によっては、さらに自らの資金で小規模ながら兵隊を練成しているところもある。拠出金による傭兵団とは協力し合うのが普通だが、手柄の取り合いになることも無いわけではない。

商用語

北方の商人といえば、リアスターグでも有名である。その活動の拠点となるのはウィジッタに総本部がある大ギルドで、ここを中心にして商取引に特化した独自の言葉が編成されている。これを商用語と呼び、北方だけでなくリアスターグ全土の商人たちの間に広く知られている。

北方商人と取引をしたい場合、この言葉が使えたほうが有利である。ちなみに大ギルドは、リアスターグで最初の同業者ギルドとして知られている。

所属都市

市民登録数の順位も示すが、それは 504 年のポルワード壊滅直前のものである。壊滅後は第 1

位だったポルワードが最下位になり、その他の都市の順位は1つずつ繰り上がるので注意すること。

なお各都市を結ぶ交易路はオアシスを結ぶように作られている。これらの治安については、都市連合が責任を負い、付近の都市の傭兵団が維持に努めている。ただ、交易に対する影響が少ない場所での事件に都市連合の傭兵団が派遣されることはあまり無い。

ア = カハシュ

最初に同盟を構成した都市のひとつ。宝石鉱脈のそばに作られ、宝石の原石を生産する街だった。しかし鉱脈が尽きたことで街の基幹産業が衰退し住人も減っていった。

規模	治安	活気	居住権	出入り
B	B	C	有	8cpの税(アハースュは免除)

現在は、砂漠を歩く時のガイドを務める"アハースュ"と呼ばれる職種の訓練と認定を主に行っており、これは砂漠を旅する者の助けとなっているが、往年の賑わいはやはり失われている。

都市の代表者は皆から選ばれた市長で、現在は元アハースュのヌイヒャル=オン。彼の意見により、都市の公的機関としてアハースュ登録所が設けられ、アハースュとしての訓練も受けられるようになった。

8都市内の市民登録数順位は第6位。

(以下はプレイヤー情報)

市長の存在は表向きのもので、実際の統治は"枢密院"と呼ばれる秘密の組織によって行われ、市長はその声の代弁者に過ぎない。枢密院の構成メンバーは常に秘密とされているが、その存在自体は市民の間で公然の秘密となっている。

ヘ = カハシュ

最初に同盟を構成した都市のひとつ。宝石細工の職人の町で、ア = カハシュで算出された原石を加工していた。ア = カハシュからの原石調達が困難になってからは、クアロシウスから原石を買い上げている。

規模	治安	活気	居住権	出入り
B	B	C	有	8cpの税(細工に関わる者は免除)

実際に宝石細工を作る職人たちが集まる宝飾職人ギルドと、宝石細工の為の道具を作る職人たちが集まる用具職人ギルドがあり、この2つが何故か勢力争いを続けている。お互いに無くてはならないものはずだが、都市の代表者はどちらかのギルドから出しており、その決定で毎年揉める為、仲が悪化しているらしい。

宝飾職人ギルドのギルドマスターはケスター=ディンド、用具職人ギルドのギルドマスターはコレット=エイン。この2人が毎年都市の代表の座を争っており、もはや毎年の風物詩となっている。

8都市内の市民登録数順位では第5位となっている。

ウィジッタ

最初に同盟を構成した都市ウィ＝カハシュに住んでいた者が建設した都市。ウィ＝カハシュは425年の"ゼハラ封印戦争"(ゼハラの項を参照)で消滅したが、それまではヘ＝カハシュで作られた細工を売り出す役割を持っており、リアスターグ各地にウィ＝カハシュ出身の商人が赴いていた。これが北方商人の活動の原型である。

ウィ＝カハシュ消滅後 商人たちが都市を再建し、そこに互助組織である"大ギルド"の総本部を置いた。北方では唯一の港町でもあり、現在も北方商人の活動の拠点となっている。都市連合に復帰したのは430年。

規模	治安	活気	居住権	出入り
A	B	A	有	自由

大ギルドの総長が都市の代表者を兼ねる。現在の総長はウィルヘル＝カーズ。かなりの高齢であるため、引退して後進に道を譲る時が近いと囁かれている。

8都市内の市民登録数順位では第2位となっている。時としてトップになることもあったが、大ギルド運営が忙しいことを理由に、主幹都市になることを一貫して辞退している。拠出金は順位に応じた分を払いだしているため、辞退することが問題になったことはない。

ポルワード

加盟は424年。3都市で築かれていた同盟に、更に加わろうとした最初の都市。ウィ＝カハシュと同じく多くの商人が集まる都市で、砂漠の西部地域にあってカハシュ3都市からはかなり離れた所に位置する。このため砂漠東部を勢力下に収めていたウィ＝カハシュの商人たちと対立するのを避け共存する目的で同盟参加を打診し、これが認められた。現在はポルワードの商人たちも大ギルドの一員となっている。

規模	治安	活気	居住権	出入り
B	C	A	(保留中)	自由

市民から選ばれた市長が都市の代表を兼ねていた・・・が、504年 地下に眠っていた遺跡が突然起動して、地上に浮上した。もちろん、その上にあった都市は壊滅しポルワードは都市たりえなくなる程だった。浮上した遺跡は"ディエスト"と呼ばれ、直径四半ワグ(約600m)・厚さおおよそ5ディソルト(約10m)の円盤状で、上空10ディソルト(約20m)に浮いたままとなっている。

特に動く様子の無い遺跡を見て、市民は開き直り、このディエスト上に市の役場を建ててしまい、市民権登録を一時的に凍結して、地上部("ロチェル"と呼ぶ)の再建のために人を集めることにした。無事再建が成った暁には、その作業に従事した者に市民権を与えると発表したため、定住する地を求める人々が集まり、復興作業は進んでいる。

ディエストとロチェルの間は"光の径(みち)"と呼ばれる魔法的な手段で行き来が可能。ディエストの周囲に等間隔で8ヶ所の"光の径"が設けられており、ディエスト側で承認されれば、これを使用できる(移動する様子は現実世界のエスカレータに近い)。

都市の代表には学院でも学んだ経験のある魔術師セラノ＝イーシャが招請され、復興作業を指揮すると共に、ディエスト内部の調査も進めている。内部には一国の軍勢をそのまま運べるぐらいのスペースがあるという。

8都市内の市民登録数順位は第1位で10年近く主幹都市だったが、ディエスト浮上により、市民登録数の計上は白紙となっている。また壊滅した都市の再興には拠出金も充てられており、現

在 抛出金の払い出しを免除されている。長い間 最も多くの抛出金を払い出していたため、これに反対する都市は無かった。

ゼハラ

加盟は 482 年だが、実際にその名が大きく知れ渡ったのは 425 年（後述）。巨大な地下遺跡の上に築かれた街で、その遺跡は過去の貴重な資料が保存されており、現在は "ゼハラ = ライブラリ" として知られている。

規模	治安	活気	居住権	出入り
C	B	C	有	税は無いが発火物は預ける

ライブラリに収められた文献を元に、古代魔法文明の巨大な破壊兵器（ダウゼント砲と呼ばれる）を復活させ、その武力をもって都市連合（当時はカハシュ 3 都市とポルワードが参加）を乗っ取るうとした。抵抗した都市連合側に対し、ダウゼント砲が使用されてウィ = カハシュは消滅した。

これが、425 年に起きた "ゼハラ封印戦争" と呼ばれる戦乱である。

この戦乱は、都市連合側の要請を受けて、当時の帝国皇帝ティルス 7 世が "黒影の杖" アルザインと黒魔兵団を派遣するほどの騒ぎとなった。アルザインはダウゼント砲が大量の魔晶を消費しなければ発射できず、一度の発射で使用不能となっていたことを看破して、都市連合軍と黒魔兵団を突入させて、ゼハラ市内を制圧した。

元々ゼハラでも一部の者が暴走したために、こうしたことが起きたことが分かったため、ゼハラ自体が滅ぼされるようなことは無く、今後は同じようなことを繰り返さないという誓約をもって、この戦乱は終結した（ゼハラ = ライブラリの資料が非常に貴重であり、それを管理する者が必要だった・・・という事情もある）。また、消滅したウィ = カハシュに代わる新たな都市建設の費用をゼハラが負担し、ウィジッタが作られた。旧ウィ = カハシュ住人の感情に配慮し、ゼハラは都市連合には入らなかったが、それから 50 年以上経過してから、ようやく認められて都市連合の一員となった。

ゼハラ = ライブラリの管理がこの都市の役割であるため、その管理局が都市の代表を兼ねている。現在の管理局長は ロレッタ = ジマ。元は "魔術師の塔" の幹部クラスだったとも言われるが、そうした過去のことを本人は語らないため、真偽は分からない。

ライブラリの情報は非常に膨大だが、魔法的な手段で保存されていて、ゼハラから外へ全てを持ち出すことは不可能となっている。専用の魔道回路を使ってアクセスすることで保存された情報を見れるようになっており、いくばくかの費用を支払えば誰でも備え付けられた魔道回路を借りて閲覧可能。

8 都市内の市民登録数順位は第 7 位となっている。

クアロシウス

加盟は 460 年。豊富な宝石鉱脈に人々が集まって自然発生的に出来た街。露天掘りでも相当な原石が掘り出せるため、生活のためにここにやってくる人々は後を絶たない。ここに住む者は一般的な意味での裕福な暮らしとは無縁だが、宝石を掘りながら日々を楽しく暮らすことが気に入っているらしい。

規模	治安	活気	居住権	出入り
B	C	A	無	自由

街の唯一の公的機関は " 鑑定者ギルド " で、ここに属する専門の鑑定官によって、掘り出された原石の価値が判定されて、いったん都市が買い上げる。その後、原石を求めて訪れる人々に都市を通じて売り出される。その収益で鑑定者ギルドが運営されている。都市連合に加入した理由は、安定した原石の取引先を得ることと、治安を守るための組織 (傭兵団) を派遣してもらうためだった。

ヘ = カハシュが主な取引先となっているが、珍しい原石が見つかったとき、その噂を聞きつけた砂ドワーフが訪れることもあるという。

鑑定者ギルドの責任者が都市の代表者を兼ねる。現在の責任者はダル = ヘサット。自身が凄腕の鑑定官だが、豪快な性格で街の人々からも親しまれている。彼の父親も責任者を務めており、都市連合への加盟を決めたのも彼の父親だった。

この街は市民の登録を行っておらず、従って正式な市民数が分からない (一般的な方法で数えれば第 6 位くらい)。8 都市内の市民登録数順位は常に最下位で、都市連合に払いだす拠出金も微々たるものだが、宝石の原石を、それまでの相場よりかなり安く提供することで、僅かな拠出金でも許され、治安維持のための傭兵団派遣も受けている。

レステア

加盟は 482 年。南部にある砂漠の外れに築かれた都市。大きな城壁で市内を囲んでいて、登録された市民と中に入るための税を支払った者だけが城壁内に入れる。この中は治安も非常に良く、安全が確保されている。治安維持のため、傭兵団とは別に市民による衛兵集団が組織されている。

規模	治安	活気	居住権	出入り
A	B	A	有	8cp の税 (武器は預ける)

城壁の外には市民登録が叶わなかった人々などが集まり、スラム状に街が形成されている。周囲は砂漠というより低い草の生えた土地のため、砂漠よりも快適に生活可能であることがスラム形成の一因でもある。

城壁外部は極端に治安が悪いところもあるが、城壁内に入るための厳しい審査を嫌って敢えて中に入らずに逗留する旅人も多く、そうした客を相手にする 割とまともな宿屋や歓楽街も作られている。登録された市民も羽目を外すために、外の歓楽街に行くことがあるという。

都市の代表は市民に選ばれた市長で、現在はエルマン = ギナック。504 年に主幹都市になったとき、その意外な激務で当時の市長ピネ = ハーサーが倒れてしまったため、新たに市民に選ばれた。

8 都市内の市民登録数順位は第 3 位。主幹都市だったポルワードが壊滅した後は、第 2 位のウィジッタが辞退したため、レステアが主幹都市となった。拠出金を使って外部のスラム街を整理する計画もあったが、外部区域が、いまや城壁内部の産業を支える側面もあるため踏み切られなかったらしい。

ヴィシュ

加盟は490年。西方で名を馳せた武器商人エラゾソ＝ヴィシュが個人的に建設した都市。西方に伝わる武器職人の技を継承し、砂漠で発見された良質の鉄鉱石脈を利用するために、都市を建造したという。実際、ここで生産される武具は良質なことで北方でも知られている。

規模	治安	活気	居住権	出入り
B	A	B	有	8cpの税

税を払って出入りできる区画は職人たちが生活する市街地のみで、ヴィシュ家の館を中心とする当主が住むエリアは自由な出入りは許可されていない(武装した衛兵によって厳重に守られている)。

ヴィシュ家は自分の勢力拡大のために、かなり汚い手段も辞さない体質があり、大ギルドとも対立することが多かった。都市が建設された後も、都市連合に加盟する気配は無かったのだが、新たに就任した当主の一言で、都市連合への加盟が具申され、規定に従っていたことから、都市連合側も加盟を認可した(これによりヴィシュ家の勢力を抑えられるという目論見もあったのだろう)。

西方では"生ける盾"の活動を全面的に支援し、その後建国されたゼール王国でも経済的な権利を独占して莫大な儲けを得た。このヴィシュ家の特権的な扱いへの反発が大きな要因となり、初代国王の死後、王国は分裂した。ヴィシュ家が北方に都市を作ったのは、王国分裂後のこととなるが、それは西方の武具製造技術を完全に取り込むために時間を要したからだったようだ。

都市の代表は、ヴィシュ家の当主が勤める。現在の当主はリエーヌ＝ヴィシュで、彼女が都市連合への加盟を側近にも内緒で進めた。元々連合への加盟に賛成する側近が誰もいなかったため、加盟認可の使いが都市連合から訪れたとき、相当に紛糾したらしい。

8都市内の市民登録数順位は第4位。加盟時に内部でごたごたがあったものの、規定に従った額の拠出金を払い出しており、同盟に従った商人の出入りも許可していることから、この都市に対する警戒感はいぶが薄れている。それでも、一般的な感情として、ヴィシュ家に対する北方の目はまだまだ厳しい。

主な組織・機関

大ギルド

アハーシュ登録局

ゼハラ・ライブラリ

ヴィシュの牙

[幻想世界リアスターグ](#) > [地理](#) > [北方](#) > [カハシュ都市連合](#)
